

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年になく厳しい寒さと大雪で、中高年層の来街者が減少し、大型店を含めて商店街は厳しい状況であったが、ホテル、飲食店などは、東北新幹線の新青森駅の開業効果により先月に引き続きプラスの効果があった。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・今月は気温、天候の影響に左右されていた部分はあるが、春物に関しての客の購買動向をみると、フォーマル商品の動きが比較的早くからみられ、前年に比べて上向いている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・先月同様に、特にミセス客の購買が上向いている。定価品、セール品を問わず、春物に意識が向いている様子がうかがわれる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・前年は非常に気温が低かったことで売上が低迷したが、今年は来客数が緩やかに伸びており、全体的に回復傾向にある。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・たばこの値上げ効果で売上は回復傾向が続いている。また、光ケーブル工事が多く、局地的には工事関係者による買物が売上を押し上げている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3か月前より良くなっているが、販売量の回復はかなり緩やかである。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・客の購買意欲が向上している。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・先行受注の動きをみると、客の動きが例年よりも早めの推移となっている。
		旅行代理店（従業員）	それ以外	・2月の取扱額は国内旅行が前年比119.5%、海外旅行が前年比112.3%となっている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・スマートフォンへの注目が高まっており、客が話題にするだけでなく、引き合いも増えている。
		観光名所（役員）	来客数の動き	・今月は春節の効果で月初めから海外客の入込が順調に推移しており、その後も雪まつりの効果で国内客の入込が順調に推移している。後半の入込客の動きが今一つではあるが、月全体では前年を上回る入込客を確保できそうである。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・政局や海外の状況が不安視されているものの、株式市況が上向きなことから、客のマインドが上向いている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・分譲マンションのモデルルームへの来場者数が増加している。資料請求の数も多い。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・徐々にではあるが、買い控えの状況にあった客が来店し始めている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・日々、先行き不透明なことが多すぎて、なかなか消費に対する意欲が上向いてこない。セールに対しても、季節商材に対しても客の反応が良くない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・中旬までは、前月に引き続き来街者数が減少傾向にあったが、中旬以降に地元百貨店が行っている食のイベントなどにより、中心市街地を訪れる客が増加しており、ファッション衣料を除いた一般服や日用雑貨品の購入客が増加した。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・観光客の動きをみると、今月は修学旅行生が多少みられるが、例年の半分から3分の2程度の入込にとどまっており、寂しい限りである。一般客はほとんど姿がみられない状況にまで落ち込んでいる。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・得意先1件当たりの販売量が先月と比べて上向いており、やや回復してきている感じはあるが、基調としてはまだまだ変わらない。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・春物の動きをみると、ジャケット・スカート・パンツ関連が前年に比べて9割程度の販売にとどまっている。皮物バック・靴関連も春物の動きがまだみられない。
百貨店（売場主任）	来客数の動き	・ここ3か月と比べて買上客数がやや回復しているが、前年比98.3%と相変わらず前年を下回っている。客単価は前年並みで推移している。		
百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数は前年比で横ばいでの推移となっており、客の購買意欲が以前ほど強くなっている。		
百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・来客数は前年を上回っており、買上率も向上しているものの、客単価は前年割れとなっている。		

	スーパー（店長）	販売量の動き	・ 2月は営業日数が少ない分、年間を通しての販売量も最少の月となるが、前年比でみると101%と微増となっており、状況はほとんど変わらない。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・ 来客数の伸びが前年比105%と好調に推移しており、売上も順調に推移している。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ 来客数は前年並みかそれ以下の状態で推移している。たばこの値上げにより客単価は上昇しているが、買上点数は減少傾向にあり、状況は良くない。
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・ エコポイント制度変更前の駆け込み需要の反動がまだ続いており、来客数が減っている。テレビの売上が落ちたため、全体の売上も悪かった。
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・ 家電エコポイント制度も前年ほどの勢いはないが、まだまだ効果としては大きい。今年に入ってほぼ横ばいの状況が続いている。
	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・ 石油製品の需要が減少しているうえ、車関連商品の需要も減少している。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ 今月は暖かい日が多く、会合や団体などの利用もみられたことから、例年並みの売上となった。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ 冬のイベント期間中の来客数は増加しているが、普段の来客数は微減している。
	観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・ 高額宿泊プラン趣向とインターネット販売での低価格競争との二極化の動きがみられた。スキー客、スノーボード客を含めた観光客、ビジネス目的の宿泊客ともに、宿泊客数は横ばいで推移している。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ 国内旅行は、企画商品が前年比97%、手配旅行が前年比98%となり、全体で前年比97%となった。一方、海外旅行は前年比79%となった。国内旅行及び海外旅行全体では前年比90%となっており、伸び悩み状態が続いている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・ 12月から1月にかけては天候の影響もあり、タクシーの利用はまずまずであったが、2月は前年よりも利用客が減っている。雪まつり期間中も天気が良く、入出はあったが、タクシーの利用は前年よりも減っている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・ 3か月前と比べて、売上は変わらない。周りを見ても景気が上昇しているのか下降しているのか、判断が付かない状況であり、全体としての状況は変わらない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・ 電話注文による売上は前年並みとなっている。1件当りの客単価は低下しているが、件数は前年を若干上回っている。
	通信会社（社員）	お客様の様子	・ たとえ1月数千円の支出であっても、客の対応は慎重であり、現在の支出を削らなければ費用をねん出できないと言われることが多い。景気の悪さに疲れきっている客の様子が見て取れる。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・ 客が増える見込みが全くない。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・ 今年度の公共事業による工事が引き続きみられており、前年に比べて輸送量が増加している状況が続いている。
	設計事務所（所長）	お客様の様子	・ 客の慎重な姿勢が続いている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・ 来客数が減少しており、客の買い控えもみられる。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・ 客の動きは以前にも増して悪くなってきている。
	スーパー（役員）	単価の動き	・ 2月は商品単価が前年比101.2%、客1人当たりの平均買上点数が前年比99.6%となり、客単価が前年比100.8%で推移している。この3か月間、大きな変化はみられないが、部門別にみると、嗜好品の買上点数が減少している傾向にあり、余分な部分での買物を節約している傾向がうかがえる。
	高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・ 週末のディナー予約が堅調である。そのおかげで客単価が前年比で12%上昇している。ただし、来客数は横ばいであり、全体としての景況感はあまり良くない。

		スナック（経営者）	来客数の動き	・統一地方選挙の動きがみられるようになっており、少しずつ客が出歩かなくなってきた。	
		美容室（経営者）	お客様の様子	・先行きへの不安感が増大しているため、今はお金を使わないといった雰囲気は漂っており、たとえ安くても不必要な物は買わない状況にある。客の来店周期も大幅に間隔が長くなってきている。	
	悪くなっている	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・エコポイント制度の変更により、11月の駆け込み需要の反動を受け、売上が3割程度減少している。	
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	競争相手の様子	・月末、給料日などに関係なく、客が来ない状況にある。大雪の影響もかなりある。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	-	
	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新築住宅の着工が堅調に推移しているため、家具インテリアの需要も伸びている。	
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・しばらく厳しい景況感が継続していたが、3か月前と比較すると、足元の業績と景況感は回復傾向にある。	
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・わずかながらではあるが客の仕事量が増えてきた。ただし、受注単価が低いせいか、購入意欲は低く、売上の増加にはつながっていない。	
	変わらない	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・原油の大幅な価格上昇によって、電気・ガス・ガソリン・灯油等が値上げとなっており、製造業ではコスト高が経営を圧迫している。2月は受注が大きく落ち込む月ではあるが、原料高の影響を受けて受注量や価格動向は前年より厳しい状況にある。	
		食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・短期的な受注は増えているが、基調としての伸びは感じられない。売上も前年とほぼ同じである。	
		金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量に変わりはなく、特に景気が良くなっているとは考えられない。	
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・製紙業、医薬品、飲料業、飼料業に大きな変化はみられない。	
		金融業（企画担当）	それ以外	・政策支援効果もほとんどなくなり、乗用車販売などが落ち込んでいる。公共投資は補正予算分が発注されているが、工事の進捗はこれからである。アジアからの外国人観光客は増加しているが、国内観光客は幾分減少している。	
		司法書士	取引先の様子	・冬期間であることに加えて、景気も停滞している状況にあるため、今一つ伸びてこない。	
		司法書士	競争相手の様子	・政局の不安定、予算の問題など、景気の良くなる要素がない。特に北国では記録的な降雪の影響で、購買意欲が向上するような状況ではなく、不動産取引が極端に減少したため、収入が悪化している。	
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・特に受注が増える気配はない。	
		やや悪くなっている	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・ここに来て、原油価格が非常に上がっているため、燃料価格の上昇につながっている。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）		受注量や販売量の動き	・累計での売上実績をみると、25日時点で前年比89.5%となっているが、3か月前は前年比93.3%となっていた。前年比が低下していることは明白だが、この3か月間の落ち込みは拍車がかかっている。	
	悪くなっている	司法書士	取引先の様子	・不動産の売買、建物の新築が相変わらず低迷している。	
	雇用関連	良くなっている	-	-	-
		やや良くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・若干ではあるが、求人広告の掲載件数が、飲食、コンビニエンスストアを中心に広がりを見せている。
			求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・前年と比べて、全体的に求人数が増加している。特に製造業や建設業、道内業務請負業等の求人の伸びが目立っている。
			求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・国の雇用対策の効果なのか、紹介・派遣業を中心に、関連する業務請負業やコールセンター等の求人の増加が目立つ。また、建設関連業も前年比70%増と、まだ厳しい状況ながらもニーズが出てきている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から5.4%増加し、12か月連続で前年を上回った。月間有効求人数は前年比で13.7%増加し、12か月連続で前年を上回った。		

変わらない	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・人材派遣のニーズは、一般事務系は横ばい、医療系は引き続きニーズが高く、販売系は年末年始の繁忙期が一段落したことで一服感がみられる。中途採用のニーズは3か月前に比べると改善傾向にある。2月は、当社で合同企業説明会をいくつか行ったが、企業は以前よりも積極的に参加する意向を示しており、求人ニーズが微増傾向にあるとみられる。しかし、契約社員や数か月のパート勤務後の採用といった求人も多く、企業の採用に対する慎重さは変わらない。
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・1月と比べて求人数が変わらない。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・前年4月から連続して、募集広告の売上が前年を上回っているが、今月はほとんどの業種・職種で前年を上回った。特に、派遣、飲食、医療系の募集広告が大きく上向いた。介護は慢性的な人手不足で、毎月一定の売上があるが、今月は大手の病院が例年以上に募集を行った。募集広告の傾向は、パート、アルバイトの求人が中心となっているが、パート系の需要が多いため、主婦層の消費の活況につながる可能性があり、好循環を期待している。
	職業安定所 (職員)	それ以外	・1月の管内の有効求人倍率が0.42倍となっており、3か月前と比べて0.03ポイント下回った。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数の推移をみても、求人数の流れに大きな変化はみられない。
	職業安定所 (職員)	雇用形態の様子	・1月の新規求人数は前年を1.5%上回った。新規求職者数は前年を11.9%下回った。月間有効求人倍率は0.49倍となり、前年の0.35倍を0.11ポイント上回ったものの、依然として求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチが少なくないことから厳しい状況にある。
	学校 [大学] (就職担当)	周辺企業の様子	・2012年採用活動が本格化する2月を迎え、相応の期待感を持って合同企業説明会等に臨んだが、全体的に慎重で、厳選採用を進めたいという意向を示す採用担当者が多く、2011年採用と同様に内定獲得に向け学生側の苦戦は避けられない状況にある。採用の開始時期のばらつきも見受けられ、秋期に優秀な人材確保をしたいとする企業も少なくない。
やや悪くなっている			
悪くなっている	-	-	-